



平成 21 年度 画像保存セミナー

日本写真学会の画像保存研究会は、次世代に伝えるべき記録と価値ある写真画像、またその他の画像記録物の確実な保存を目指し、その知識の普及と技術の確立を目的としております。その主旨に則して画像保存セミナーを 1984 年より開催し、本年度で 26 回目を迎えることとなりました。その間に、11 件の歴史的写真資料が重要文化財として国指定を受けました。

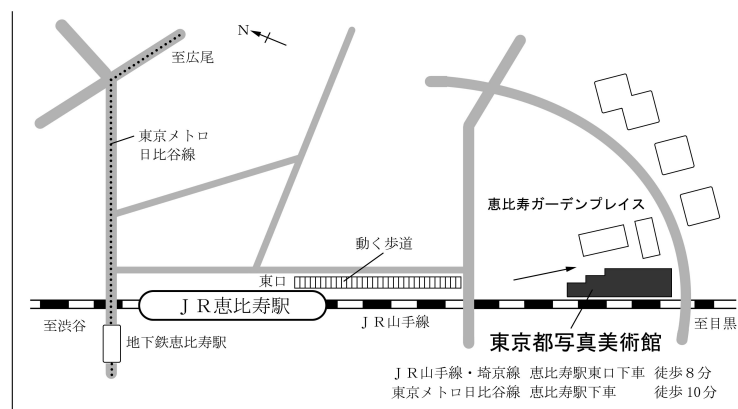
近年、写真産業界では、銀塩写真関連の規模の縮小が急速に進み、その一方でデジタル化の波が加速してまいりました。このような産業構造の変革によって画像保存を取り巻く状況が変化するとともに、画像保存に対する意識が様々な分野で高まっております。

今回のセミナーでは、デジタルカラー写真プリントの画像保存性評価、デジタルファクシミリの制作、殺菌・静菌効果を有する酵素濾紙、図書館の資料保存、写真原板の概念、フィルム保存の現状、文化財写真としてのデジタル写真画像など広範囲にわたる内容で構成しております。

本年も東京都写真美術館ホールを会場として開催致します。また、例年通りセミナー終了後、講演者と参加者が自由に情報や意見の交換をして頂けますよう、懇親会を設けております。画像保存に関心のある方、関連分野の多くの方々のご参加を頂けますよう、ご案内申し上げます。

日時：平成 21 年 10 月 30 日（金）
9 時 50 分 ~ 17 時（9 時 30 分 受付開始）

場所：東京都写真美術館ホール
東京都目黒区三田 1 - 13 - 3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 社団法人 日本写真学会
協賛 日本写真芸術学会
一般社団法人 文化財保存修復学会
財団法人 日本博物館協会
東京都写真美術館

セミナープログラム

- 9:30 受付開始 (9:30 までは建物内にお入りになれません)
- 9:50 開会挨拶 セミナー実行委員長
- 10:00 講演 1 . 画像技術と図書館の資料保存 - Looking backward and forward -
資料保存研究者・元国立国会図書館副館長 安江明夫
- 10:50 マイクロ写真の導入以来、画像技術は図書館の不可欠の基盤となっている。現在はデジタル技術が加わり、その重要性は一層高まっている。しかし一方、TAC フィルムのピネガー・シンドローム、デジタル・ジレンマなど、長期保存の観点では留意すべき課題がある。報告では資料保存における画像技術の位置付けと課題を振り返り、将来を見据える一助としたい。
- 10:50 講演 2 . 高品質な貴重書デジタルファクシミリの制作
慶應義塾大学 榎村雅章
- 11:40 本というメディアそのものが学術的・文化的価値を有する貴重書をデジタル化するには、高度な研究利用にも適する高い品質や信頼性を持つ画像を得る必要があり、それは文化財の代替保存の観点からも重要である。本講演では、HUMI プロジェクトが開発してきた貴重書デジタル化の手法を紹介する。
- 昼食休憩 (70 分) -
- 12:50 講演 3 . 文化財保存へのアプローチ『気相中で殺菌・静菌効果を有する酵素濾紙』
日揮ユニバーサル(株) 磯前和郎
- 13:40 酵素濾紙は、環境調和型技術として国内外のクリーンルームや対バイオテロ空調など業務用エアークリーナ材として高い評価と実績を得ている。この酵素技術のメカニズム・安全性・実環境下での殺菌・静菌効果などを電子顕微鏡写真などを交ぜながら紹介する。
- 13:40 講演 4 . 写真原板とは何か
東京都写真美術館 金子隆一
- 14:10 なぜ写真原板を保存しなければならないのか。この問いかけに対する答えは、写真原板とは何なのか、そしてその存在の意味は歴史的にどのように培われてきたのか、ということをはっきりとすることによってしか見いだされないとはいえない。このあまりにも根源的な問題をめぐって、仮称「日本写真保存センター」の調査活動の中で得た知見をもとに問題提起を試みる。
- 14:10 講演 5 . 「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」について
(社)日本写真家協会 松本徳彦
- 15:00 我が国の戦後史を研究する上で、重要な資料となるのが写真である。そうした事象を記録してきた写真家たちのほとんどがすでに物故され、膨大な写真原板(フィルム)が散佚、廃棄されつつある。なかには劣悪な保存環境のために写真原板の劣化が進んでいる。写真の歴史的、文化的な価値の再評価と、新たな活用への方法を探る調査報告を行う。
- 休憩 (10 分) -
- 15:10 講演 6 . 文化財等の写真記録に関するガイドライン策定の取組みについて
オリンパスイメージング(株) (文化財写真ガイドライン検討グループ) 吉田英明
- 16:00 文化財の写真記録の現場では、感材の供給やデジタル記録媒体の保存性等の不安要素を抱えている。この課題意識に基き、文化財の撮影・記録に使用する機材・フォーマット等についての標準的手法を示すガイドラインの策定に着手したので、活動の概要を紹介する。
- 16:00 講演 7 . JEITA 規格「デジタルカラー写真プリント画像保存性評価方法」について
セイコーエプソン(株) (JEITA) 加藤真一
- 16:50 2007 年 11 月に制定された、JEITA(電子情報技術産業協会)規格「デジタルカラー写真プリント画像保存性評価方法」(CP-3901)の評価内容の詳細について、決定に至った背景を技術的な観点から解説する。また、制定後の運用状況、及び今後の展望についても紹介する。
- 16:50 閉会挨拶 日本写真学会副会長

- * 各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音はご遠慮願います。
- * 閉会后、講演者と参加者の自由な情報交換の場として懇親会（下記参照）を行います。奮ってご参加ください。

参加申し込みについて

セミナー参加費（講演要旨集代金を含みます）

日本写真学会および協賛学協会々員	6,000 円
非会員	8,000 円
学 生	2,000 円

（日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。）

定 員 180 名（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

懇親会 講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり懇親会を開きます。参加ご希望の方は郵便振替用紙の該当欄にその旨ご記入の上、会費をお送り下さい。

時間：当日 17 時 30 分より

場所：恵比寿ガーデンプレイスタワー3階 カフェテリア・エスパシオ

会費：3,000 円

申込締切 平成 21 年 10 月 9 日（金）

申込方法 郵便局備え付けの振替用紙をご利用になり、通信欄に「画像保存セミナー」とお書きのうえ、参加費区分（会員 / 非会員 / 学生）、勤務先、所属学協会名、懇親会参加の有無をお書き添え下さい。ご入金を確認し、参加証をお送り致します。また、懇親会に参加ご希望の方は会費も合わせお振り込み下さい。

写真学会、協賛学協会等から配布するパンフレットに添付の振替用紙もご利用になれます。日本写真学会ホームページ <http://www.spstj.org/> から参加申込ができます。トップページの「最新イベント情報」、あるいは左肩「イベント」よりお入り下さい。その場合でも、参加費のお支払は、上記のように事前に郵便振込みでお願い致します。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、参加のご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

送り先 〒164-8678 東京都中野区本町 2 - 9 - 5 東京工芸大学内

（社）日本写真学会

Tel. 03-3373-0724

郵便振替口座番号：00130-6-72818

Fax. 03-3299-5887

日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

年会費： 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

社団法人 日本写真学会 事務局
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5
東京工芸大学内
Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887
URL <http://www.spstj.org>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

社団法人 日本写真学会

会 長：阿部隆夫 副会長：久下謙一 山岸 治

画像保存セミナー実行委員会

委員長：山口孝子（東京都写真美術館）

委 員：青木直和（千葉大学） 上田耕一郎（東京工芸大学）
大関勝久（富士フイルム） 大西弘幸（セイコーエプソン）
金沢幸彦（富士フイルム） 河野純一（コニカミルタテクノロジーセンター）
杉本和俊（コダック） 高橋則英（日本大学）
原 正人（日本大学） 宮田公佳（国立歴史民俗博物館）
吉田 成（東京工芸大学）